

[構成的グループエンカウンターカレッジ—SGE College—] 案内

主催 NPO 日本教育カウンセラー協会 (JECA)

日本教育カウンセリング学会 (JSEC)

SGE College の趣旨

後援 (社) 日本図書文化協会 (財) 応用教育研究所

SGE College は教育カウンセラーの資質向上を目指すものです。この資質とはプラクティショナー資質とリサーチャー資質です。これらは不即不離の関係にあります。

本カレッジは教育カウンセリングのアクションリサーチ (実践研究) に関してグループ学習する場です。教育カウンセリングは児童生徒の発達課題を解決し成長を援助するもので、その方法としては①個別対応、② SGE、③キャリア教育、④サイコエジュケーション、⑤対話のある授業、⑥学級経営、⑦サポートグループ、⑧シェアリング方式スーパービジョン、⑨チーム支援、⑩リーダーシップ、⑪学校経営 (マネジメント) が挙げられます (國分康孝 教育カウンセリング概説 図書文化 2009.)。

一方アクションリサーチは実践を通して、①ある事実の発見や概念仮説、解釈の提起、③実践方法とその効果を調べることを目的とするリサーチのことで、要約すれば、教育カウンセラーの児童生徒への良質な援助を支える資質がリサーチャー資質です。

SGE College の2つのコース

SGE College には次の2コースがあります。(1) SGE コース、(2) 教育カウンセリング一般コース。前者はSGEに特化されています。ここではSGEという心理教育的なグループアプローチに関するアクションリサーチを学びます。本コースがSGEに特化されている理由は、SGE体験が教育カウンセラー養成・資格認定上の基礎的資質・条件として位置づけられているからです。

次に教育カウンセリング一般コースは前述した種々の方法のリサーチについて学びます。例えば、学級づくりの実践を通して、教育カウンセリングの観点から学級集団の成長過程を数量的に測定するための因子 (特性の束) を見出した。特別支援を必要とする児童生徒の二次障害を防ぐために、ある実践をした。その実践効果はかくかくしかじかである。

カレッジ参加者の学習の仕方

カレッジ参加者は以下に示すような方法で学習します。グループ学習の過程は<発表 20 分>、<シェアリング 5 分>、<質疑応答 10 分>、<スーパービジョン 15 分>です。発表は炉端の談話風に行います。シェアリングは小グループで、発表を聞いて「感じたこと気づいたこと」を分かち合

SGE College



います。次に疑問点や不明な点に関して、質疑応答をします。その後にスーパービジョン (SV) があります。これは技術上の問題に関する指導・助言の事です。

また SV に関連して、ショートレクチャーが入ります。

スーパーバイザー

國分康孝 JECA 会長、JSEC 理事長、東京成徳大学名誉教授・学術顧問

國分久子 JECA 理事、JSEC 理事、青森明の星短期大学客員教授

片野智治 JECA 副会長、JSEC 理事、跡見学園女子大学教授

吉田隆江 JECA・SGE 委員長、JSEC 理事、武南高等学校教育相談主事

JECA・SGE 公認リーダー他

日 程 第6回：2011年10月30日（日）9：30～16：00

受付9：10 開講式 9：30より 解散16：00

会 場 霞城セントラル「山形市保健センター」3階 大会議室

会場案内参照

対 象 教育カウンセラー、小・中・高等学校教員及び教育関係者

教育カウンセリングに興味・関心をお持ちの方

定 員 定員80名

参加費 発表参加（1回につき発表数5件）及びフロアー参加を問わず、どなたでも
ワンコイン（500円）を当日受付で納金してください。

申込方法 別紙の申込用紙に必要事項を漏れなく記入し、ファックスしてください。

申込先 03-3941-0213 SGE College 係

（メール添付可 jim@jeca.gr.jp）

申込期間 発表参加の場合は開催日の2週間前までにお申し込みください。

フロアー参加の場合は原則として開催日の5日前までにお申し込みください。

当日の参加受付もします。

研修証明 実践発表証明と研修会参加証明を発行します。

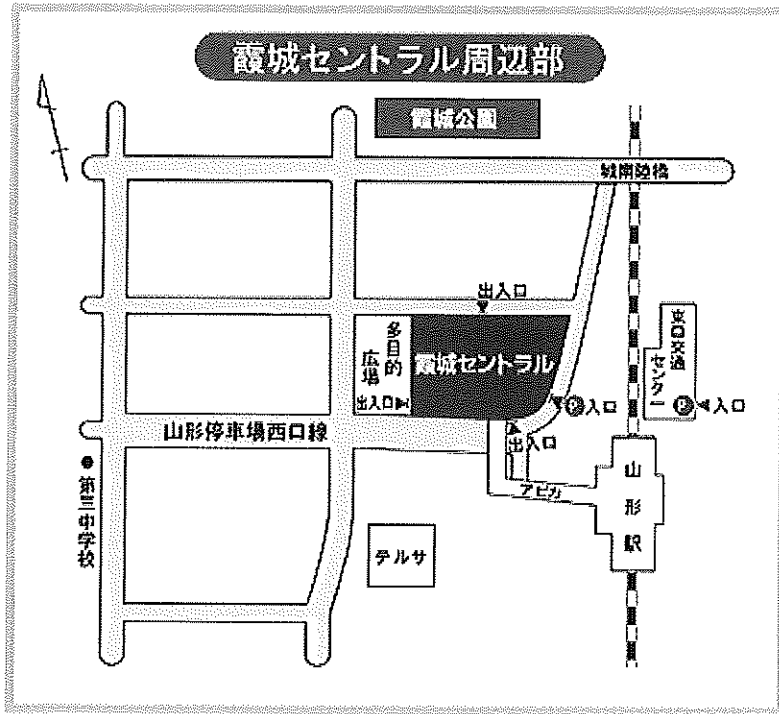
広 報 ホームページ（JECA 及び図書文化社出版部）を検索してください。ここで
申込書や発表原稿の書き方、会場案内、研修証明書等の詳細を掲載しています。

参考図書 國分康孝 教育カウンセリング概説 図書文化

國分康孝・國分久子・片野智治・岡田弘・加勇田修士、吉田隆江 エンカウンターとは
何かー教師が学校で生かすためにー 図書文化

國分康孝・吉田隆江・加勇田修士・大関健道・朝日朋子・國分久子編 エンカウンター
スキルアップーホンネで語る「リーダーブック」ー 図書文化

片野智治 教師のためのエンカウンター入門 図書文化



SGE College 申込書

日本教育カウンセリング学会事務局御中 (F : 03-3941-0213)

氏名 自宅住所 〒 Tel.

勤務先 勤務先住所 〒 Tel.

連絡先 自宅 勤務先 (○で囲みます) : Fax ()
E-mail ()

会員登録 (○で囲みます)

NPO日本教育カウンセラー協会・・・会員 (初・中・上級) 非会員

日本教育カウンセリング学会・・・会員 非会員

参加の仕方 (1) 発表参加 (2) フロアー参加 (○で囲みます)

(3) 参加会場 (第 回 会場) 会場名を記入

SGE コースの発表参加者・・・あなたの SGE 体験歴を教えてください。

()

タイトル&発表内容の要約 (200 字程度)・・・下記の例を参考にしてください。

タイトル「 (SGE 実践発表・リサーチ発表) ○で囲む

SGE 実践発表・・・例 マインドサークル (心の円)・・・200 字程度

中学 1 年生 2 クラスを対象に、5 月中旬以降 1 カ月間、週 1 回の割で、エクササイズ「マインドサークルシート (心の円)」を、帰りの会の中で 15 分程度 (シェアリングを含む) を行った。本実践の目的は豊かな感情表現を促すところにある。その結果、生徒らは①不安・焦り、②疲れ・戸惑い・困難、③期待・楽しい・うれしい、④充実感・張り合い感といった感情体験を各自がしていることを生徒間で共有できた。

リサーチ発表・・・例 児童間のポジティブな他者発見行動に関する調査研究・・・200 字程度

「相互理解の深化をめざす SGE 実践の効果測定に自己評価方式 (自己認知の変化) を用いるのは十分ではない」(犬塚, 2000 年) という指摘に示唆を得て、児童間のポジティブな他者発見行動調査法「あなたのここがいいところ」を用いて、小学 3 年生 34 名を対象に実践効果を調べた。その結果、子どもたちのポジティブな他者発見行動の定着が示唆された。

児童のポジティブな他者発見行動「あなたのここがいいところ」

— SGEエクササイズの日常化の試み—

原田友毛子（所沢市立南小学校）

キーワード：ポジティブな他者発見行動 SGE あなたのここがいいところ調査

1. 問題・目的

本実践はSGEエクササイズ「あなたのここがいいところ」を日常的に実践し、児童間のポジティブな他者発見行動の定着化を目的としている。本実践の効果を調べ検討するために、犬塚（2000）の指摘に示唆を得て、「あなたのここがいいところ」調査法を用いた。犬塚（2000）はSGEをテーマとする修論への要望として、「効果測定のためのさまざまな尺度が用いられているが、いずれも自己評価方式をとっており、相互理解の深化を目指すSGEとしてはこれでは不十分である」と述べている。尺度を用いた自己評価方式は認知の変化を測定するものである。そこで認知の変化のみならず、それを行動レベルで相互に確認し合う方法を試みた。

2. 方法

（1）対象：公立小学校の3年生1学級34名（男16，女18）

（2）調査：ポジティブな他者発見行動『あなたのここがいいところ』調査

（3）SGEの試行と調査の実施：4月当初より継続的にスペシフィックSGE（表1、割愛）を行った（200X年4月～7月：1学期間）。また、ある程度の児童間の交流が観察できた5月初旬にプレ調査を、夏休み前日にポスト調査を実施した。「これからあなたのいいところというワークシートを書きます。クラスの中で書きたいと思う人のことを書きましょう。23分間ですが、何枚書いてもいいです。」とインストラクションした。

3. 結果・考察

児童が他の児童の良いところを書いた件数を調べ事前と事後で比較検討した。事前の件数の範囲は1人0から10（平均値6.32）、事後は0から32（平均値13.06）であった。このことはSGEの継続的实践によって児童の「ポジティブな他者発見行動」の定着が示唆されたと考えられる。プレ調査における記述を分類したところ、81種類あった。その内容の上位は、ありがとう（39件）・やさしい（29件）・すごい（20件）・足が速い（18件）・ドッチボールが強い（13件）・絵がうまい（12件）・遊んでくれる（10件）・仲良く（10件）・遊ぼう（10件）であった。

ポストでは177種類に増加しており、その内容の上位は、いつも（79件）・ありがとう（71件）・やさしい（50件）・いいね（46件）・すごいね（41件）足が速い（31件）・絵がうまい（31件）・ドッチボールがうまい（30件）・字がうまい（24件）・やさしくしてくれる（22件）・おもしろい（20件）・野球がうまい（17件）であった（図1、割愛）。

記述数81種類が177種類と46%の増加となっていた。また明るい、元気などの抽象的な言葉が減少し、ポストで「いつも」という言葉が最多であった。このことは2ヵ月半の関わりの広がり、児童個々のいいところ発見行動が定着し、相互確認していること示唆している。プレ・ポストとも多かった「ありがとう」という記述は、自分が困っていた時に親身になってくれたという相互扶助行動（例、当番活動や係り活動における相互扶助行動）への感謝の表現として用いられている。ポストでは自分と記入対象児童との具体的なエピソードを80%程度の児童が記述していることは、児童相互の自覚的行動と考える。またこれらの変化はSGEの継続的試行によって児童間のポジティブな他者発見行動の促進・定着を示唆している。換言すれば、児童相互の自他受容が促進され、児童の自己肯定感の高まりを示唆している。

犬塚文雄 2000 構成的グループ・エンカウンターをテーマとする修論への要望（國分康孝編 続構成的グループ・エンカウンター

誠信書房）